

「食物アレルギーにおける特異 IgE 抗体の推移と

予後との関連の検討」について

1. 研究（調査）の目的と概略

食物アレルギーは年々増加しており、小学生の5%程度が罹患しているとの報告もあります。それに伴い、長期にわたり寛解の得られない児も増加しています。食物アレルギー診療はガイドラインも発刊され、食物経口負荷試験を中心とする診断・治療法が確立していますが、その予後因子は明らかではありません。本研究の目的は、特異 IgE 抗体の推移と予後との関連を明らかにすることです。また、予後と関連した臨床像、家庭での摂取状況、経口食物負荷試験の結果を明らかにします。これにより、食物アレルギーが、早期に寛解が得られるのか、または、長期にわたり持続し続けるかが早期に明らかになります。予後因子より寛解が得られにくいと判断された場合は経口免疫療法などの介入を行う判断材料となることが期待されます。

2. 研究（調査）の方法

2019年1月～2022年7月までの間に、岐阜県総合医療センターに通院歴のある食物アレルギーの患者様に関してカルテから情報を抽出します。初発時の年齢、誘発症状の重篤度、特異 IgE 抗体の推移、総 IgE 抗体価、プリックテスト、経口食物負荷試験の結果、その後の家庭での摂取状況、経過について解析します。

3. 研究（調査）の参加施設

岐阜県総合医療センター

4. 調査期間

調査期間（倫理委員会承認日より3年間）

5. 調査の対象となる患者様

岐阜県総合医療センターに通院歴のある食物アレルギーの患者様です。

6. この調査への協力は任意です

本研究は、患者様の診療記録から得られた情報のみを使用する「観察研究」と呼ばれるもので、患者様に新たな診療や検査を強いるものではありません。研究結果は、個人が特定できないように匿名化して管理し、個人情報を守ります。

データのご使用をお断りになる場合には直ちに情報の利用を停止いたしますので、ご遠慮なくお申し出ください。

7. お問い合わせ先

本研究は、岐阜県総合医療センターの倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を得ています。お問い合わせ先は下記です。

岐阜県総合医療センター小児療育内科 金子英雄 電話：058-246-1111